

指定管理者評価シート

事業名	札幌市自閉者自立支援センター運営管理費	所管課(電話番号)	保健福祉局保健福祉部障がい福祉課(211-2936)
-----	---------------------	-----------	----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市自閉症者自立支援センター	所在地	札幌市東区東雁来12条4丁目1番5号
開設時期	平成17年11月1日	延床面積	328,055㎡
目的	激しい行動障がいや有する自閉症者(児)及びその家族に対する入所、通所による支援を提供し、その自立を目指す。		
事業概要	知的障害者施設入所支援 生活介護事業 自立訓練事業 自閉症・発達障がい支援センターの運営		
主要施設	知的障害者施設入所支援(入所30名短期入所6名) 生活介護事業(44名) 自立訓練事業(6名) 体育館 作業館 自閉症・発達障がい支援センターおがる 交流スペース		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人はるにれの里		
指定期間	令和3年(2021年)4月1日～令和8年(2026年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:管理期間中の管理が良好であると認められたことから、札幌市福祉施設条例第13号第2項及び札幌市自閉症・発達支援障害支援センター条例第6条第2号の規定に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数:2 複数施設を一括指定の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり、施設の維持管理等に関する業務を統括して行うことで業務の効率化が図られるため。		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施業務、施設利用承認等業務		
3 評価単位	施設数:2 複数施設を一括評価の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり施設の維持管理等に関する業務を統括して行っているため。		

II 令和5年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 ▼ 法人理念のひとつである「どんなに重たい障がいがあっても当たり前の自分らしい生活を送ることができるよう事業運営する」ということを全職員が念頭に置き、個別支援計画に基づきながら「地域の暮らし」の実現に向かうという基本方針を引き続き継続している。 ▼ 令和5年度は、札幌市自閉症者自立支援センター(以下、ゆい)にとって、札幌市の指定管理者業務5期目(令和3年4月1日～令和8年3月31日)3年目の年であった。 コロナウイルス感染予防への取り組みについては、法人全体で感染予防の徹底と、利用者やご家族へも帰省や面会、外出等での配慮及び感染症の予防啓発を継続しつつ、新しい生活様式の更なる定着や工夫に向けて取り組みを進めた。 時代の流れは常に変化しているが、ゆいの最も大きな使命は、利用者が望む暮らしを送るための様々な取り組みを創造し実践し続けることである。	○ゆいが果たすべき役割を目指すためのキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために6つの具体的な指針を掲げ、柱となる観点からの取り組みを進めた。感染予防への取り組みとして、マスク着用や手洗・消毒の他、日常生活では人との接触を意識した活動や余暇の実践に取り組んだ。残念なことに入所利用者1名がコロナ感染から軟部組織感染症となり入院治療となった。治療の甲斐ありリハビリ目的の病院へ転院したが、様態が急変し2月28日にお亡くなりになった。あらためて感染症の対策を強化し、現在に至っている。 12月には職員全体で一年間を振り返り、次年度の計画に繋げていく。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">A</th> <th style="width: 25%;">B</th> <th style="width: 25%;">C</th> <th style="width: 25%;">D</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table> ・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。 ・強度行動障がいや有する自閉症者が地域の中で生活を送るための組織力及び支援力向上・職員の意識定着の強化に向けた取組は特に高く評価できる。 ・新型コロナウイルス感染症対応として、リモート面会等を家族へ提案して、感染症対策と交流とを両立させる取り組みをしていることは評価できる。 ・道外からの支援者実習受入れは派遣元・受入側双方に大きな効果が期待でき、高く評価できる。	A	B	C	D	A	B	C	D
	A	B	C	D							
A	B	C	D								

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

▼新規入所及び通所利用者に関しては、本人の状態や家庭状況、緊急性等のニーズを踏まえ、関係者会議を実施し決定する。令和5年度は、生活介護に新たな在宅利用者の受入れをすすめ、1名の方が新規利用開始となった。またご利用いただいていた1名の方が、グループホーム移行のため利用終了となった。

▼短期入所・日中一時支援においては、コロナウイルスの影響から緊急性の高いニーズについての受入れは進めつつも、利用の自粛をお願いする時期もあった。新規でご利用いただいた方は3名であった。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ガスの使用に関しては従来通り、冷暖房の空調やパネルヒーターで使用する冷温水を各所へ送るプログラム操作の「一括管理」を行うことで、ファンやポンプ系の稼動減・ボイラーの稼動減を推進し省エネに努めている。

平成28年度からは季節に応じた使用を前提とした契約～「小型空調用B契約」により、年間を通してフラットな使用により割安になるプランを継続している。厨房業者が変更となり、慣れない職員が調理を行っている影響かガス使用量は前年度比で約16.7%増となった。

▼ガソリン・軽油の使用に関しては、コロナが5類になり、外出機会などの増、また通所利用者が増え送迎回数が増えたことにより、前年度比約11.7%の増となった。

▼電気使用量については、猛暑他により、前年度比3.3%の増となった。

▼各エネルギー・資源の節約に関しては、継続して廃棄物の減量・リサイクル(「廃油の買取」・「裏紙の再利用」・「ダンボール・ペットボトル・缶の業者回収」等)に努めた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼入所のABCブロックにおいては変則勤務のため、全職員が集まることは難しい。ABCブロックだけでなく生活介護も含め、月に2回管理職も加わったスタッフミーティング、ユニットカンファレンスを実施した。生活介護事業所について平日は常時利用者が活動しているため、利用日ではない月に一度の土曜日を勤務日とし、集中的に情報の共有や協議、環境調整を行った。不適応行動への対応として、早期に情報の共有を行い統一した介入ができるようグループウェアやメール等を活用した他、短時間、少人数でもケースカンファレンスを開くよう心掛けた。また各チームのリーダーが参加する運営カンファレンスも月2回開催し、ゆい全体の日課や体制、各チームの課題や連携が必要な取り組み、業務効率化等について協議することができた。

○令和5年度は、生活介護の新規利用1名、利用終了となった方が1名、2024年3月末の時点で10名のご利用であった。職員体制や送迎体制に困難はあったが、個別対応が必要な方も多く、支援でカバーしきれない課題は、大型車両の導入など次年度対策を講じていきたい。

短期入所については、新型コロナウイルス感染予防の影響もあり、利用頻度は低かった一方で、受入れの際は行動履歴や健康状態を確認すると共に、フェイスシールドや防護衣着用など感染予防の徹底に努めることで、感染に繋がる状況は回避することができた。

○電力消費については、こまめに電気を消すなど職員の意識向上や委託業者への呼びかけは継続しているが、昨年の猛暑の影響が大きかったと考える。ガスの使用は、主に厨房が大半を占めているので、委託業者へ協力をお願いしているが、業者変更したことにより、慣れない中で作業となったためか若干増となった。ガソリン等はコロナが5類へ移行したこと、通所利用者増の影響が大きいのと思われる。

○今年度ゆいが目標とした「進化・深化・そして新化」というキーワードを全体に周知している。運営カンファレンスはゆいに求められるニーズや収支状況など各リーダーの運営参加意識をさらに高める場であり、リーダー・サブリーダー会議も各チームで毎月行うことができた。

▼隣接する地域生活支援センターなないろとの連携について、ゆいから通っている方を中心にリアルタイムでの情報を共有することで、感染症に関することやその日の体調、コンディションなどに沿った対策や対応に当たることができた。

▼新型コロナウイルスの感染予防を意識した取り組み(健康状況の確認、3密の回避、最少人数での会議やリモート研修、情報伝達の徹底、感染予防のための啓発など)を継続した。また、帰省や外出などご家族への啓発も行いご理解とご協力をいただくことができた。

▼新人職員と先輩職員がコンビとなってフォローしていくエルダーメンター制度を継続している。令和5年度は、新職員2名を採用した。先輩職員の役割として具体的なサポート内容と進捗状況のチェックシートを示し複数での確認ができるようにした。令和4年12月に入職した外国人職員に対しては、定期的な振り返りとともに、日本語の学びをサポートしている。月に2回ある運営コンファレンスで、新職員の業務遂行状況を確認した他、新職員のためのミーティングも6月に開催し、3か月間の振り返りと自身の仕事に対する目標の確認を行った。また8月には先輩職員ミーティングを開催し、新職員に対応する際に工夫したことなどを話し合い、情報を共有することができた。ミーティングの内容はリーダーやサブリーダーとも共有し、チームとしてもサポートしていけるよう取り組んだ。

▼人材育成を推進するための研修機会として、ゆい塾を年4回開催した。自閉症の理解に繋がるものや、グループホームでの暮らしに向けた課題の共有と対策、社会人や組織人としてのコミュニケーション、各チームの1年間の総括などである。いずれも新型コロナウイルス感染予防のため動画配信での視聴参加とした。動画配信者は、毎年リニューアルし、多くの職員が役割を担っている。また、昨年に引き続き人との交流が制限される中で、互いの人柄や雰囲気を確認する意味で、『自分紹介』と称した動画配信もおこなった。更に今年度は、より一体感を持てるよう間接業務を担っている委託業者にも協力いただき、動画配信した。

その他、座学である法人内研修についてもリモート開催など、感染予防を意識して参加した。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼入所ABC各ブロックと生活介護の4チームでそれぞれ実践テーマを設定し、関係する職員全員が関わり、取り組んだ内容をゆい全体に動画配信する『チーム支援』を今年度も実施し多くの職員が視聴した。毎年新職員が加入するが、その中でもチームで考え支援する意識が浸透すると同時にチーム力の向上、結果として利用者のQOL向上に繋がっている。

▼法人内の研修やおがる主催の研修に複数の職員が参加した。動画視聴での学びが主ではあったが、時間の制約なく自身のタイミングで視聴できるメリットがあったと考えている。また強度行動障害支援者養成研修についても、自身の支援の振り返りや新たな気づきとして多くの学びを得ることができた。

○各職員の役割を明確に位置付けた他、サブリーダーのミーティングを年2回開催した。それぞれのチーム事情はあるがサブリーダーとしての役割や今後リーダーとして求められること等を確認することができた。

○作業委員会・環境向上委員会・人権推進委員会・余暇委員会の各委員長が集まるミーティングを年2回開催し、各委員会の役割確認や、すべての職員が委員会に参画するための工夫など互いに確認した。また、それぞれの委員会活動の見える化について、グループウェアでの情報発信やポスター掲示、またゆい塾と称した研修でも各委員の取り組みを動画配信した。

○人事異動により新しく配属された職員もいる中で、学びを深めようとする意識が高くあるため、コロナ禍ではあるがその想いが継続されるよう応援したい。

○コロナ感染対策として、ご家族にも協力いただき帰省等の自粛や日程短縮等をいただいた一方で、リモート面会や近況報告の頻度を高めるなど、直接会わずとも生活状況をイメージできるよう取り組んだ。

○エルダーメンター制度は新職員から好評であった。また「先輩バディのための意見交換会」を実施し、先輩職員からも、自身の学びが深まったことなど情報交換することができた。

○ゆい塾での動画配信については、それぞれのタイミングで視聴できるメリット

○ゆいが大切にしたいことの中で「支援力を上げる」というキーワードで共通理解を図っている。各チームで四半期毎のテーマに取り組む「チーム支援」を実施した。利用者支援だけでなく業務の効率化を図るためのマニュアル見直しや環境整備などである。それぞれの取り組みを啓発するために、動画配信での報告をした他、職場内グループウェアの活用、事業所内交換研修と称し配属チーム外での情報交換もおこなった。

▼今期の5法人コラボレーションセミナー(北摂杉の子会様、横浜やまびこの里様、函館侑愛会様、国立のぞみの園様、はるにれの里)は、コロナウイルス感染対策をしつつ集合研修(後日動画配信も)での開催であった。多くの職員が新鮮な情報に触れることができ、また視聴時間も融通がきくなどメリットがあり例年同様に多くの実践を学ぶことができた。

▼年4回開催したゆい塾では、「自閉症の基礎理解(5月)」「コミュニケーション、震災への対応(7月)」「グループホームを知る、感染症について(11月)」「ゆいバリューの振り返り、各委員会活動の振り返り(2月)」を開講した他、虐待防止や感染症の予防、震災への具体的な対応、気道閉塞についても啓発をおこなった。

▼リモートではあったが、外部研修(福祉制度や権利擁護に関するもの、強度行動障害に関するものなど)にも可能な限り職員を派遣し、それぞれのスキルアップやチームへの還元を目指した。また、法人内事業所間で交換研修を実施し、互いの顔が見える状況で業務や工夫についてなど意見交換をすることができた。

▼当初予定していた実習生の受入れについて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、多くは中止することとなったが、道外から依頼のあった支援者養成のための実習については、連続して4ヶ月間の受入れを行うことができた。

▼地域生活に戻るチャンスがあればいつでも送り出せるよう準備をしている。コロナ禍ではあるが、今後も職住分離や余暇活動の充実、社会資源発掘と活用など地域生活の実現に向けたシミュレーションを継続していくというスタンスを維持していきたい。今期は男性利用者1名が体験利用を行うことができた。環境の変化に対する課題はあったが、事前の準備をしっかりと行ったことで今後のイメージを持つことができた。

▼新たな作業活動として、「たい肥」販売を開始し3年目を迎えた。これは同法人のふれあいきのこ村で椎茸栽培を終えた廃菌床を原料としたもので、不純物の除去や袋詰め、成分表示用のシール貼り、運搬など、作業工程も豊富なため、多くの利用者が関われる作業として位置付けている。

▼利用者のアート作品をLINEスタンプとして販売開始した。個性豊かな絵の数々に、吹き出し文字をマッピングさせることで多くの方に注目いただけている。また今期は気軽にアクセスできるようQRコードを活用した宣伝もすすめた。

▼社会人としての成長を促すために、今年度も四半期毎の目標を掲げている。令和5年度は、新型コロナウイルスの感染に関わる項目を文字だけでなくイラストや写真なども交え具体的に掲げた。また、仕事とプライベートのバランスが大事であることなどをあらかじめ確認するような目標も掲げた。少しずつの積み重ねが大事であると考えると同時に現場職員からの意見も参考にした目標設定を次年度も作っていききたい。

▼毎朝の打合せで、その日意識していきたいことを伝える取り組み【月曜日～交通安全、火曜日～あいさつ、水曜日～人権、木曜日～清掃・整理整頓、金

○ゆい塾に関しては、いづれも新型コロナウイルス感染対策として動画での配信とした。多くの学びを提供すると同時に、複数の職員が講師として発表する場を設けることで、プレゼンカの向上に向けても取り組むことができた。

○道外からの支援者実習受入れでは、当事業所の支援全般を経験していただけたと同時に、先方の事業所での取り組みについても多くを学ぶことができた。

○ゆいが大切にしたいことの中で「人間力を上げる」というキーワードで全職員に周知している。四半期毎にゆいとしての重点目標を各チームに配布し掲示した。毎月のチーム会議でも話題に取り上げるなど共通意識を持つことと併せて意識しつづけるための地道な取り組みと啓発が必要なことである。

○社会人として職業人としての成長については、まだまだこれからではあるが、ゆいの中で大切にしていきたいことについては、ゆいバリュー(証和快続安暖)を常に進化させまとめている。

例年の職員アンケートからの意見を参考にゆいバリューをキーワードとしながら事業計画を立案遂行していく。

○ゆいの地域移行を進める上でゆいの近隣にあるグループホームよもぎの体験利用やグループホームでの生活や支援に対する情報共有等おこなった。スタッフも利用者も地域での生活イメージを持つことで、社会資源や利用できる福祉サービスなど、課題と対策を考えることができた。

○新たな生活介護事業所なないろが開所した一方でゆいの生活介護事業所に新たな利用者の受け入れ

曜日～エコ】を行い意識づけを図った。また、コロナウイルス感染の予防意識を高められるよう、法人内外の感染状況や日々気を付けるべき事柄など定期的に発信した。

▼人権への取り組みとして、令和5年度は「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施した。結果から見えた課題などを分析し、委員会より集計結果から見えた課題や良かった点、過去との比較など解説を含めたフィードバックをすることで、再確認する項目が多くあった。その他、身だしなみや命を守るための取り組みなど啓発を行った。

▼ディスカバリーレポート(事故に繋がる課題を発見する)の運用を進めると同時に、グループウェアを使用し情報共有したことで事故の予防意識を高めることができた。

を進めた。今年度の新規利用は1名であった。
○たい肥の販売について、これまでの臨床実験結果や昨年購入いただいた方からの好評もあり、一定程度販売することができた。

○LINEスタンプについては、利用者のアート作品にコミカルなエッセンスを融合した他、LINEスタンプへ簡単にアクセスできるようQRコードを活用しながらの宣伝を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼厨房委託及び清掃業務については、窓口担当職員が決まっており、日々の現場での作業の確認を行っている。また、受託先の担当管理者とはその都度打合せの会議を行うなど情報共有し、問題・課題解決に対応してもらえるようにしている。厨房委託については、現委託業者より契約解除の申し出があり、8月より新たな業者と契約を交わし現在に至っている。

▼施設設備管理については、点検計画に基づいて定期的を実施しており、報告書により都度確認している。また、消耗品の交換、機器の不具合についても随時対応している。

▼新型コロナウイルス感染症対策として、日常の清掃に次亜塩素酸ナトリウムの使用を徹底するなど、受託業者と連携しながら感染症予防対策を継続していた。しかしながら感染拡大時にクラスターとなり、職員・利用者に感染者が発生した。

8月に利用者一名がコロナ感染から軟部組織感染症となり入院治療となった。順調に回復していたと思われたが、様態が急変し2月28日にお亡くなりになった。あらためて感染症の対策を強化している。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催	協議・報告内容
令和6年 3月9日(土)	1. 令和5年度運営状況報告 2. 令和5年度事業報告 3. 令和6年度事業計画 4. 意見交換 以上の件について、報告・助言を頂いた。
<協議会メンバー> 札幌市障がい福祉課運営指導係長／札幌市自閉症児支援さぼ 施設長／北海道自閉症協会 副会長 ／札幌市東区東雁来連合町内会 会員／特別養護老人ホームひかりの 施設長／(有限) カラーズ 代表 ／(社福)はるにれの里 理事長／事務局(所長・事務長・業務課長)	

○今年度は5類へ移行したこともあり、対面での開催とさせて頂いた。札幌市自閉症児支援さぼ施設長、(有限)カラーズ様はご欠席のため関係資料を郵送しご確認いただいた。出席いただいた方については、感染予防のため体育館を使用し、参加者間の距離を確保した。事業報告はパワーポイントを用いて説明し、各参加者からご意見や助言を頂いた。

札幌市自閉症・発達障がい支援センター(以下、おがる)においては、令和6年2月13日に連絡協議会を新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン(欠席者は書面)での開催をした。令和5年度の取り組みについての報告と、次年度の展望についての報告し、意見を返送いただき、その回答を再度関係機関へ書面にて周知した。参加者は、札幌市ピアサポーター、ペアレントメンター事務局、札幌市基幹相談支援センターワンオール、札幌市自立支援協議会(各専門部会)、札幌市精神保健福祉センター、子ども発達支援総合センター、札幌市教育センター、札幌市教育委員会、札幌市知的障がい者更生相談所まあち、札幌市児童相談所、札幌市子ども未来局、ハローワーク札幌、北海道障害者職業センター、札幌弁護士会、北海道警察本部生活安全部少年課、札幌弁護士会、札幌市障がい福祉課の方々であった。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼資金管理については、「施設入所・生活介護会計」・「発達会計」の2会計による拠点区分間経理を行っている。また、監事監査による「内部監査」に加え、会計事務所による「外部監査」も受けている。
▼施設の現金等の取扱いについては、「法人経理規程」に基づき、利用者小遣いについては、「親和会規定(親の会)」に基づき処理している。親和会は、年2回の監査を受けている。
▼平成27年度から、新「社会福祉法人会計基準」に移行。平成28年度からは、新会計基準により適した「財務ソフト」にバージョン・アップし、固定資産管理(減価償却費計算)を法人自らがやっている。
▼札幌市の事務指導で指摘を受けたことに関しては、札幌市に確認しながら改善を図っている。
▼インボイス制度が始まったので、法人内で手順を整理し、会計ソフトのバージョンアップなどにより対応している。

▽ 要望・苦情対応

▼第三者委員として利用者相談員2名(外部)を委任している。今年度は会場をゆい会議室を使用しお集まりいただいている。一年間の日々のやりとりの中で、の要望・苦情等に関して報告し、ご助言を頂くことができた。
▼利用者やそのご家族とは、年3回の個別支援計画をもとにした個別懇談会を実施し、支援の内容等をご家族とともに確認している(令和5年度も書類を郵送し電話連絡する形式で実施。ご要望がある方には対面での懇談を実施している)。また、毎年ご家族向けにアンケート(満足度調査)調査も実施している。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼札幌市への月次報告を行っている。また実地指導を年1回受け、業務の改善について逐次助言を受けられるようにしている。また懸案事項などは都度札幌市へ相談し、指示を仰ぐようにした。

○オンライン会議システムを活用し、書面以外でも報告、関係機関とのテーマトークの機会を作り、当センターの実践への感想、次年度の取り組みについてご意見を伺うことができた。

○資金管理については、規定に従い厳正に処理している。ゆい・おがるに関しては、外部の会計事務所のコンサルの指導に基づき、また、「親和会」については、保護者監査、職員複数名により精査を行っている。現金及び通帳、印鑑の管理についても、複数が関与しなければ取り扱えないシステムとし、不正防止に努めている。

○令和5年度は苦情はなく、ご要望や確認事項が複数みられる。コロナウイルス感染予防の関係で従来通り会えていないことにより不安や心配の声は引き続き感じられる。相談員とは、ご家族との懇談や電話連絡等で寄せられた不安や心配などに、実際にどのように対応したかをまとめて報告し、ご助言をいただいている。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A	B	C	D
			<p>▼就業規則を入所ABCブロック、生活介護、事務所に置いてあり、それぞれの職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>▼職員には年間公休日107日以上を保証している。また有給取得の啓発も行った。</p> <p>▼本人の休日や有休の希望に沿った勤務シフトを作成している。</p> <p>▼勤怠管理について、年度途中から静脈センサーで出勤退勤の管理をすすめた。また時間外労働や夜勤業務を行った場合、法定割合以上の割増賃金を支払っている。</p> <p>▼パート職員の時給は、最低賃金960円(令和5年10月1日発効)を下限とし、週の労働時間や直接支援などの業務内容によって時給1100円を支給している。</p> <p>▼新型コロナウイルスの感染防止の観点から、年に1回定期健康診断を実施している。深夜業に従事する労働者には更に1回の定期健康診断を実施した。</p> <p>▼産休や育休に入る女性職員が毎年数名いるが、妊娠が分かった時点で話し合いの場を持ち、勤務に無理がかからないよう勤務シフトや配置等の変更をすぐに行うようにしている。また、子育て中の職員に対し、お子さんの体調によって有給の使用等可能な限り配置上の配慮を行っている。</p> <p>▼人事考課制度を導入し、年2回職員個々の目標設定と振り返り、意見交換など全ての職員が上司と行った。</p> <p>▼セクハラやパワハラに対する相談窓口がある。</p> <p>▼メンタルヘルスについてのチェックや講座を職場内で行った。メンタルヘルスについては、チェックリストを使い自身の振り返りと共に職員へのフィードバックも行った。また人権推進委員会から『ぶっちゃけトーク』と称し、数名の職員への様々なインタビュー動画を配信し、ストレスコントロールの工夫や将来の夢などを紹介した。</p> <p>▼嘱託職員から正職員への登用試験について、毎年実施している。</p> <p>▼休憩スペースを建物内に複数設け飲み物やお菓子などを置いている。新型コロナウイルス感染対策として、個別の仕切り版や消毒セットを設置した他、複数での同時利用がないよう休憩時間に時間差をつけるなどの配慮を行った。</p> <p>▼安全衛生面については、ディスカバリーレポートを参考に、ケガや事故につながる可能性のあるものに対しては支援の見直し、緩衝材の使用や施錠の確認、異食行為予防のための物品配置の再検討などを行った。服薬の事故予防としても、複数で確認するための専用ボックス使用や色分け、写真提示などを行った。また会議室など共有エリアには、消毒セットを常備し、使用後の消毒を徹底した。</p> <p>▼スタッフの負担を減らすだけでなく、新たな人材発掘のためパートの増員を図るべく募集を募り学生アルバイト1名を雇用した。</p>	<p>○令和5年度も産休や育休の他、時短勤務での育休復帰調整も行った。また今期も全ての職員が5日以上の有給を取得するよう啓発を行ったこともあり、全ての職員が有給を取得することができている。</p> <p>○職員数に余裕があるわけではないが、本人の希望に沿った勤務シフトを作成している。また、常に見守りを必要とする利用者への支援が業務である中でも、引き続き休憩時間や休憩スペースの確保に努めた。</p> <p>○事故や安全衛生の問題としては、人権推進委員会や環境向上委員会を中心に、事業所全体の問題としてディスカバリーレポートや事故報告を全体で周知した他、動画配信などの啓発もおこなった。</p>	<p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p> <p>・正規職員への転換を積極的に進めているほか、法定割合を超える割増賃金や有給休暇の取得促進、妊娠した職員への配慮など、労働環境の改善に力を入れている点は特に高く評価できる。</p>	

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼非常災害対策全般については、各種訓練の実施、関係設備の点検、緊急時の職員招集連絡網確認、食料飲料水の備蓄管理を行っている。</p> <p>▼緊急時の対応マニュアル(火事・震災・衛生・感染・入浴・事故など)を整備し、スタッフミーティング等で職員の啓発を常に行っている。特に、事故やディスカバリー(ヒヤリハット)報告があったものについては、必要に応じて人権推進委員会から、全職員に情報の発信を行っている。</p> <p>▼防犯対策では、不審者侵入時の対策についての整備を継続している。1)正面玄関を人が通るとセンサーが事務室内で作動する 2)入所棟・通所棟への入口は外側からはカギがなければ入れないようにしている 3)建物周辺に監視カメラを設置し事務室にモニターを置いている。4)職員通用口の開錠パスワードの管理(適宜変更を検討・実施している)。</p> <p>▼利用者による建物への破壊行為等物損に関して損害保険加入を各個人にお願いし、事由が発生した場合は保護者へ相談の上、対応している。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼計画清掃の実施、警備計画による防犯対策、設備の定期保守の実施を滞りなく実施している。施設備品管理は札幌市貸与分と施設所持分と別管理しており、札幌市貸与分は毎年状況報告をしている。令和5年度は汚れ対策として、全館の特別清掃(ワックスがけ)を実施した。</p> <p>▼株式会社ロード技研様のご厚意により、駐車場のライン引きを実施していただき、駐車環境の改善を図れた。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼計画に基づき消防等避難訓練を実施した。また、河川の氾濫に備えての水防計画に基づき、コロナ感染対策で規模は縮小してだが、水防に備えて職員・利用者の避難訓練を実施した。またBCP計画も整備しており、内容について職員で確認している。</p>	<p>○令和5度は避難訓練(日中想定、夜間想定)を実施し、火災発生(想定)場所を毎年変更し、避難経路の確認、火災報知器等の操作確認等を行った。救急救命法の講習を実施し、7名の職員が受講することができた。その他、環境向上委員会を中心に、誤嚥や感染症について啓発動画を配信した。</p> <p>○地震発生の教訓から、情報伝達の方法や、非常災害物品、食料、飲料水などの備蓄、車両や発電機の燃料確保等の確認した。</p> <p>○水害に対する訓練を実施し、利用者への配慮すべき点などを確認した。</p> <p>○札幌市による自家発電装置については、毎月定期点検を実施し、万が一の場合に備えている。また年1回全停電を想定した点検も実施し、実際に自家発電装置を使った対応を確認している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 自閉症・発達障がいに関する学習機会の提供業務</p> <p>▼おがるでは、令和5年度実績で、主催または共催研修、講師派遣252回(6371人)を実施している。</p>	<p>○全国一の児童デイの数や就労系事業所の増加、または他分野での発達障がいの問題のため、できる限り多くの講師派遣を実施することができたが、まだまだ研修の依頼に対応していく必要がある。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・当事者やその家族、支援者等への支援を目的とした研修や講師派遣等の普及啓発活動を積極的に実施している点は高く評価できる。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

	<p>▽ 自閉症・発達障がいに関する情報収集及び提供業務</p> <p>▼おがるでは、ホームページ等で自閉症や発達障がいに関する情報や他機関主催の研修会情報などを随時お知らせしている。</p> <p>▼おがるでは、コロナ禍でも支援者や一般の方が発達障害に関する情報が得られるように、YouTube上に公開動画や申込者限定の動画を用意している。</p> <p>▼ゆいでは、定期的にホームページの更新をおこなっている。</p> <p>▽ 自閉症や発達障がいに関する相談業務</p> <p>▼おがるでは、ご本人・ご家族・支援者の方々への相談支援、発達支援、就労支援、機関コンサルテーションなどを行っている。その件数については、(5)の項で示す。</p>	<p>○月1回のホームページ制作会議を行い情報量を増やしてきた。今後は他の専門機関と連携してさらに充実したホームページにしていく。また、啓発にかかわることも含めて、今後もオンラインを活用し、メニューを増やしていく方向性で考えている。</p> <p>○今年度も引き続きオンラインで対応できる業務は可能な限りオンラインを活用しながら業務に取り組んだ。オンラインを含め相談できる環境を整えていくのも今後の課題としてあげられる。</p>																																																																																						
(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等(ゆい)</p> <table border="1" data-bbox="363 835 936 1249"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R4実績</th> <th>R5計画</th> <th>R5実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">入所</td> <td>件数(件)</td> <td>365</td> <td>365</td> <td>366</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>11,315</td> <td>11315</td> <td>11080</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>103%</td> <td>103%</td> <td>101%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">短期入所</td> <td>件数(件)</td> <td>76</td> <td>84</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>402</td> <td>459</td> <td>407</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>13%</td> <td>21%</td> <td>19%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">デイ(生活・訓練)</td> <td>件数(件)</td> <td>473</td> <td>491</td> <td>481</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>9669</td> <td>9853</td> <td>9851</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>82%</td> <td>83%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 利用件数等(おがる)</p> <table border="1" data-bbox="363 1288 936 1621"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R4実績</th> <th>R5計画</th> <th>R5実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談支援 発達支援</td> <td>件数(件)</td> <td>740</td> <td>1,030</td> <td>911</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>404</td> <td>600</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">就労支援</td> <td>件数(件)</td> <td>93</td> <td>50</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>33</td> <td>30</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機 関 コンサル</td> <td>件数(件)</td> <td>836</td> <td>400</td> <td>934</td> </tr> <tr> <td>箇所数</td> <td>157</td> <td>100</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>個別調整会議</td> <td>回 数</td> <td>346</td> <td>230</td> <td>386</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 不承認 0件、 取消し 0件、 減免37 件、 還付0 件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>特別支援学校への利用呼びかけ、相談支援事業所との連携を積極的に実施している。</p>			R4実績	R5計画	R5実績	入所	件数(件)	365	365	366	人数(人)	11,315	11315	11080	稼働率(%)	103%	103%	101%	短期入所	件数(件)	76	84	84	人数(人)	402	459	407	稼働率(%)	13%	21%	19%	デイ(生活・訓練)	件数(件)	473	491	481	人数(人)	9669	9853	9851	稼働率(%)	82%	83%	83%			R4実績	R5計画	R5実績	相談支援 発達支援	件数(件)	740	1,030	911	人数(人)	404	600	500	就労支援	件数(件)	93	50	73	人数(人)	33	30	25	機 関 コンサル	件数(件)	836	400	934	箇所数	157	100	189	個別調整会議	回 数	346	230	386	<p>○入所は30名定員のところ31名の利用だったが、利用者1名が8月末より入院、2月に入院先でご逝去され30名となっている。短期入所は職員配置等により利用増を図ることができず前年並みの19%の利用実績。生活介護は通所利用を少しずつ増やすことができ、83%の実績となった。引き続き利用増に努めていく。</p> <p>○相談支援など、昨年度より件数が増えているものがある。オンラインの活用や電話受付を中心に相談や機関支援などを実施し、件数を維持に努めた。</p>	<table border="1" data-bbox="1268 801 1444 835"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・自閉症者自立支援センターに関しては、概ね計画どおりの事業実績であり評価できる。短期入所の稼働率は、引き続き稼働率の向上に向けた取組を進めていく必要がある。</p> <p>・自閉症・発達障がい支援センターに関しては、概ね計画を上回る実績となっており、業務の要求水準を十分に達成している。様々な方法で件数維持に努めてほしい。</p>	A	B	C	D
		R4実績	R5計画	R5実績																																																																																				
入所	件数(件)	365	365	366																																																																																				
	人数(人)	11,315	11315	11080																																																																																				
	稼働率(%)	103%	103%	101%																																																																																				
短期入所	件数(件)	76	84	84																																																																																				
	人数(人)	402	459	407																																																																																				
	稼働率(%)	13%	21%	19%																																																																																				
デイ(生活・訓練)	件数(件)	473	491	481																																																																																				
	人数(人)	9669	9853	9851																																																																																				
	稼働率(%)	82%	83%	83%																																																																																				
		R4実績	R5計画	R5実績																																																																																				
相談支援 発達支援	件数(件)	740	1,030	911																																																																																				
	人数(人)	404	600	500																																																																																				
就労支援	件数(件)	93	50	73																																																																																				
	人数(人)	33	30	25																																																																																				
機 関 コンサル	件数(件)	836	400	934																																																																																				
	箇所数	157	100	189																																																																																				
個別調整会議	回 数	346	230	386																																																																																				
A	B	C	D																																																																																					

<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼インターネット上で法人ホームページ及び事業所のページを掲載している。http://www.harunire.or.jp/ ゆいのページでは、随時、イベント報告や実践報告等をアップしている。おがらのページではさまざまな研修会情報をお知らせしている。</p> <p>▼ゆいへの見学者であるが、感染対策をしながら保護者や養護学校教諭、施設職員、学生などの見学依頼に対応し1名から複数名と希望人数に答えながら120名弱の見学者を受け入れている。</p> <p>▼ウェブアクセシビリティの取組について総務省みんなの公共サイト運用ガイドラインに基づき、日本工業規格の適合レベルAAIに準拠するよう、当法人とマルチベンダ(保守)がダブルチェックを行う。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 該当なし</p>	<p>○強度行動障がいを伴う重度の自閉症の方々への支援や、地域移行に対する取り組みは全国でも関心が高く、ゆいでの実践については、例年見学などを通じて説明している。今年度は、感染対策をしながら複数名での見学も実施。可能な範囲で見学依頼に応じるように努めている。</p> <p>○また、見学を実施した際には、感想や意見などを頂く機会を設けることができるように努め、頂いた意見を関係者と振り返る場も設けている。現場職員にフィードバックすることで、モチベーションにも繋がっている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。</p> <p>・強度行動障がいを有する自閉症者の地域移行の実績の高さや取組内容が高く評価され、相当数の見学依頼を受けていることから、広報業務は適正になされていると評価できる。</p>	A	B	C	D												
A	B	C	D																
<p>2 自主事業その他</p>																			
<p>▽ 自主事業 該当なし</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼前年度に引き続き就労継続支援施設(精神障がいの方が多)へ軽微な施設修繕等を依頼し、障がいをもった方に作業を依頼している。</p> <p>▼在宅生活者の施設利用について、隣接施設がないと連携して推進している。</p>	<p>○就労継続支援施設への修繕依頼については、利用者特性に合った対応がなされている。</p> <p>○在宅利用者については、日中一時や短期入所の利用希望に対応している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D					<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・適正に事業を実施している。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D																
A	B	C	D																
<p>3 利用者の満足度</p>																			
<p>▽ 利用者アンケートの結果</p> <p>▼札幌市自閉症者自立支援センターゆいでは、令和6年3月に親和会会員のご家庭にアンケート調査用紙を郵送した。回答数は24で回収率は約77%となっている。昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響があり、活動や懇談などの自粛が続いているが、その中ででの対応に感謝のお言葉を頂いている。</p>	<p>○全体の満足度では、5段階評価の4以上(とてもよい、よい)は、93%となっており前年比±0%である。感染対策を続けながら、利用者・保護者のニーズに応えられるように相談して調整している。全職員、運営協議会、親和会総会にて回答結果を示している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D					<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・2施設総合では要求水準を上回る満足度であり、評価できる。</p> <p>・自閉症者自立支援センターについては、アンケートの回収率の向上と接遇に関する満足度の向上に努めること。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D																
A	B	C	D																

〈質問 1〉 当センターを利用して、利用者さん（お子様）の状態は改善してきたと感じますか？



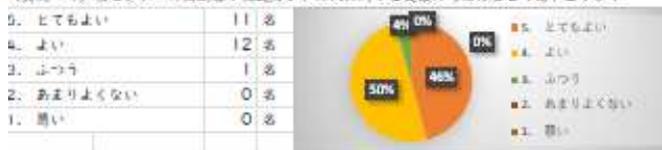
〈質問 2〉 当センターの建物の管理と清掃は行き届いていますか？



〈質問 3〉 当センター職員の接遇に関してどのように感じましたか？



〈質問 4〉 当センターの自閉症や発達障がいの人に対する支援の考え方がどう思いますか？



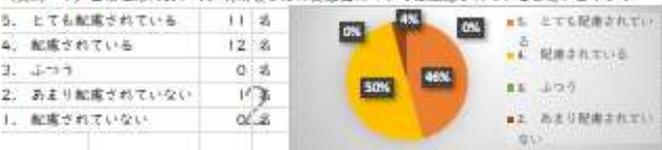
〈質問 5〉 個別支援計画に係る相談の内容に満足していますか？



〈質問 6〉 職員は利用者さんやご家族の相談をよく聞いていますか？



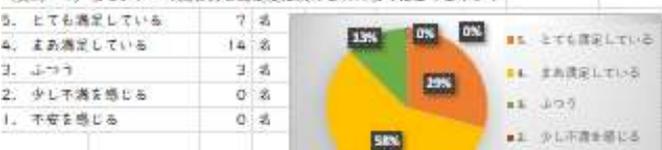
〈質問 7〉 日常生活において、利用者さんの健康面については配慮されていると思いますか？



〈質問 8〉 利用者さんの余暇が充実するよう配慮されていると感じますか？



〈質問 9〉 当センターの総合的な満足度は次のどれに当てはまりますか？



〈質問 10〉

当センターに対するご意見やご要望がありましたら、お書きください。

本人と4年以上会っていないので直接面会したいです。

いつも先生やスタッフさんに色々な面でご支援頂いています。小さな不安や気付きの点について、その都度お話を聞いて頂いて本当に感謝しています。これからもよろしくお願ひいたします。

R 当センターのご協力ありがとうございました。

アンケート結果として、「2」という評価を受けている箇所が3つある。懇談、余暇、健康の箇所であることから、コロナ禍での制限が続いている状態が負荷になっていると考えられる。「命を守る」ということが最優先だが、ご本人(ご家族)のQOL向上という視点を再度意識し、満足度が向上するサービスを提供していく。

▼札幌市自閉症・発達障害支援センターでは主催研修(発達障がい講座スタンダード)と機関支援についてアンケートを行った。

発達障がい講座STANDARD

2023年度受講者アンケート集計結果

研修実施日

第1回 5月24/31日 第2回 8月7日 第3回 10月18/25日

第4回 1月29日

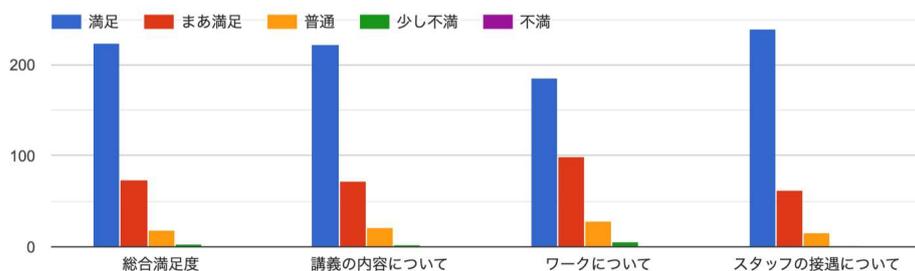
※第2回、第4回はオンデマンド形式

アンケート回答方法 各回最後に回答 Googleフォーム方式

参加人数(全4回合計) 351名(第1回80名/第2回56名/第3回146名/第4回69名)

アンケート回答 318件(回答率 91%)

研修会について、いかがでしたか



機関支援アンケート2023年度

配布：127

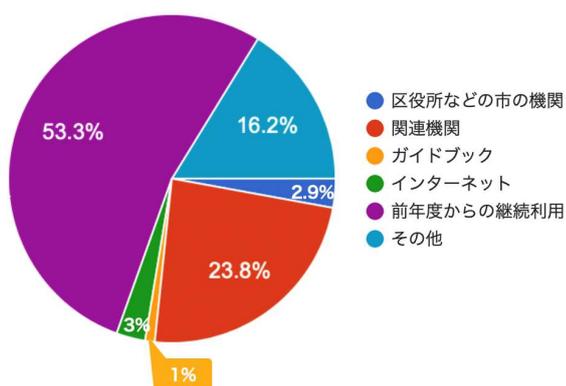
(3回以上機関支援で訪問した機関)

回収：105

回収率：82.7%

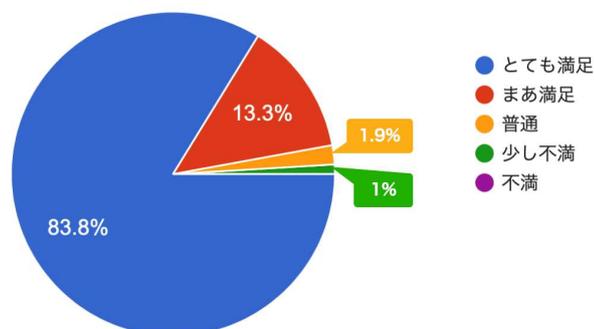
1.当センターの情報について（どのようにしてお知りになりましたか）

区役所などの市の機関	3
関連機関	25
ガイドブック	1
インターネット	3
前年度からの継続利用	56
その他	17
合計	105



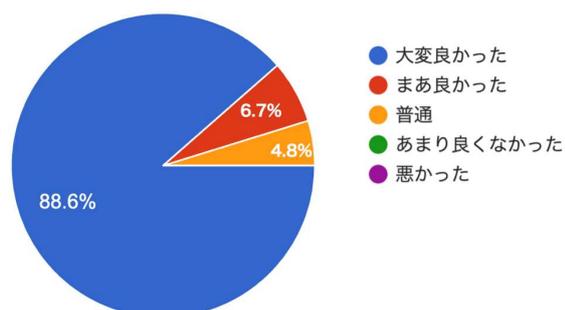
2.当センターの機関支援の利用について

とても満足	88
まあ満足	14
普通	2
少し不満	1
不満	0
合計	105



2.当センターのスタッフの接遇について

大変良かった	93
まあ良かった	7
普通	5
あまり良くなかった	0
悪かった	0
合計	105



4 収支状況

▽ 収支 札幌市自閉症者自立支援センター (千円)

項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)
収入	284,244	283,286	▲ 958
指定管理業務収入	284,244	283,286	▲ 958
指定管理費	19,875	19,875	0
利用料金	18,453	18,369	▲ 84
その他	245,916	245,042	▲ 874
自主事業収入	0		0
支出	276,363	275,529	▲ 834
指定管理業務支出	276,363	275,529	▲ 834
自主事業支出			0
収入-支出	7,881	7,757	▲ 124
利益還元			0
法人税等			0
純利益	7881	7,757	▲ 124

▽ 説明

○収支全体では加算増などにより前年度より収入増となった。入所については、利用者1名が2月に逝去されたため、1名減となったが、今年度は大きな影響はなかった。通所利用は利用者増により前年より収入増となった。支出は前年より職員2名減で推移したため人件費減、施設の老朽化により修繕費や保守料増となったが、予算より抑えめにできたことにより、収支は前年より大きく改善することとなった。

▽ 収支 札幌市自閉症・発達障がい支援センター (千円)

項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)
収入	41,487	42,045	558
指定管理業務収入	41,487	42,045	558
指定管理費	30,715	30,715	0
利用料金			0
その他	10,772	11,330	558
自主事業収入			0
支出	47,013	45,879	▲ 1,134
指定管理業務支出	47,013	45,879	▲ 1,134
自主事業支出			0
収入-支出	▲ 5,526	▲ 3,834	1,692
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 5526	▲ 3,834	1,692

▽ 説明

○支出の大半は人件費である。産休～育休に入った職員がいたため、人件費の支出抑制により、マイナスの収支差額を計画より抑制することはできたが、計画との差であり、人件費が収入を上回る傾向は変わらない。職員異動等により、人件費総額が低くなったため、前年度に比べてマイナス幅が減少することとなった。

○新型コロナウイルスの5類移行により、世の中は感染対策が緩和傾向となったが、利用者への影響を考慮し、従来と変わらない感染対策を実施した。何度か感染が発生し、ユニット閉鎖をすることはあったが、大きな感染拡大に繋がることなく対応することができた。

A B C D

・2施設合計収益では黒字決算になっており、評価できる。
・自閉症者自立支援センターでは、新型コロナウイルス感染対策を継続しているため、影響が出ているにも関わらず収入増を図り、計画では支出超過であるところを実績にて黒字転換した点は評価できる。
・自閉症・発達支援センターでは支出超過となっているが、計画より大きく赤字の縮減に努めている点は評価できる。
・運営の安定化のため、少なくとも2施設合計収益については、黒字を目指して計画を立てるよう努めること。

○おがるの業務は、高い専門性を必要とすることから、一定の経験がある職員を配置をしなければならぬ。できる限り支出抑制しても経験者配置による人件費支出を収入見合いに下げることは難しい。

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		適	不適
▽ 安定経営能力の維持 ▼法人全体では資金収支的には問題ない状況となっている。ゆいの損益状況は改善傾向となったが、職員配置に余裕がない状況での結果であり、引き続き改善していく必要がある。ゆいとしても入所、通所とも利用者増を図り、おがるの赤字分の補填+αで経営できるよう努力していく。		適	不適 ・自閉症・発達支援センターが単体として収支赤字であるものの指定管理2施設合計としては黒字になっているほか、法人全体として安定した経営を保持している。
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼「個人情報保護条例」については、実地指導があり、当初提出した報告内容と変更がないことを確認して頂いた。 ▼「暴力団排除推進条例の適用について」に十分留意し、契約その他の行為に関わることがないように適切に事務等を進めている。そのほか各条例の規定に則り、全て適切に対応するようにしている。		適	不適 ・各条例を順守し、適正に対応している。

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>ゆいの使命は「地域生活へ戻す」取り組みの推進や、不適応行動に対して予防の視点を持ち家庭生活等へのサポートをすることである。この使命に向かって進むキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために「支援力を上げる」「組織力を高める」「人間力を磨く」という3つの観点からの取り組みを進めた。</p> <p>「地域に戻す」という使命に関して、令和5年度も地域へ戻すための取り組みを進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響はありつつも、地域での暮らし体験を計画実施することができた。今後も感染状況を踏まえ、また予防の徹底を図りながら職住分離や余暇活動のバリエーションを増やすなど地域に戻るための取り組みを今後も継続していく。</p> <p>隣接する生活介護事業所なないろが開所したことで、当センターの生活介護に新規利用枠ができた。定員を満たすことはできなかったが、新たに1名の方にご利用いただくことができた。ご自宅までの送迎など職員体制の課題はあるが引き続き新規利用の募集を行っていく。</p> <p>短期入所については、他利用者との相性や性別への配慮、児童と成人の住み分けなどにも配慮し利用をすすめた。令和5年度は引き続きコロナウイルスの感染状況を踏まえ、利用の自粛要請と緩和を繰り返しつつ、緊急性のあるニーズに対しては、隣接する生活介護事業所なないろと連携し感染予防のための情報交換を密におこないご利用いただいた。新規のご利用は3件であった。</p> <p>短期入所を新規で利用いただくに当たり、一定の手続きでアセスメントや引継ぎができるよう、受け入れ側の効率化を図るための協議を継続した。</p> <p>3つの観点に関してであるが、「支援力を上げる」ひとつとして、今年度も道外から支援者養成のための長期実習受入れを行った。自身の業務振り返りにも繋がり、また他法人の支援や組織体制なども学ぶことができた。その他おがる含め相談期間や学校関係との情報交換を密に行い、情報の収集や今後の暮らしの在り方、新規利用希望などについても意見交換を行うことができた。また、コロナ禍ではあるが、職員の学びを応援するために年4回のゆい塾を開催した他、道内外の研修や法人内事業所交流などもリモートや動画視聴等で実施した。</p>	<p>ゆいの使命として、行動上の問題に対する予防的な支援と地域生活の実現を掲げている。そのための具体的な骨子を共通言語として打ち出すことで、職員全体の意識をまとめていきたいと考えている。</p> <p>最前線と最高峰をめざして ◇地域に戻る取り組み @地域に戻る取り組みの継続 →コロナ禍ではあるがリスクを回避しつつ、いつでも移行できるよ う準備をすすめていく →地域での暮らしを支えるための職員確保をすすめる 日常業務のイメージが持てるよう、学生アルバイトの積極的な受け入れをすすめる @よもぎの体験利用 →移行シミュレーションに基づいた計画的利用をすすめることが できた。 →女性利用者や日中のみの利用など利用方法の工夫 ◇バックアップ施設としての役割 @グループホーム支援体制維持のための仕組みづくりを なないろと協働ですすめていく ◇地域の方々へのサポート @新規の短期入所の利用ニーズに対応する →隣接する地域生活支援センター「なないろ」との役割 分担をすすめる @ショートステイ利用の際の効率化(アセスメント)を図る @生活介護事業所の新規利用者の受入れ →相性を踏まえた送迎体制の確保や、作業工賃を還元できるような作業開拓を更にすすめる @集中支援へのチャレンジ →関係機関と連携しアセスメントに基づく環境調整をモデル 的におこない、他事業所に還元する ◇地域への貢献 @コロナ禍でも可能な支援者実習の受け入れ @町内会活動への参画とゆいイベントへの招待 @災害時の協働</p>

<p>「組織力を高める」取り組みとして、人権推進委員会が企画した「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施し、結果の違いや傾向を分析すると共に、全体にポジティブな視点でフィードバックすることで共通意識を高めることに繋がった。また、例年の余暇委員会では利用者の活動の様子などを中心とした動画作成などを行い保護者と共に直接お会いしての意見交換会を実施した。また職員間で協力し日々の利用者の様子を写真に収め、全てのご家族にアルバムとして贈ることができた。そして「人間力を磨く」取り組みとして、作業委員会や余暇委員会から利用者のアート作品の製作をLINEスタンプで販売を開始した他、ゆい内共用エリアでの展示やアート出展もおこなった。</p> <p>ゆいにおいては、入所の3つのブロックや生活介護、4つの委員会を中心として、医療・栄養・事務・そして今年度より発達検査チームも加わり、利用者の方々の生活を支える関係スタッフとの協働が横断的に、そして日常的に行われている。コロナウイルス感染予防のため、最小人数やリモートなどハイブリッドでの会議開催など3密の回避を実践すると同時に情報共有を重視した。権利擁護や人権感覚を養うための研修や専門スキルや職業人として、また医療の基本的な知識を高めるための研修、関係スタッフとのケースカンファレンスなど活発に行われている。</p> <p>コロナウイルスの感染予防については、法人としての啓発のみならず、ゆい内でもフェーズ3を示し具体的な予防策の実施とともに、利用者の外出など感染リスクを減らすための協議と取組みが行われた。残念ながらコロナウイルスの感染は確認されたが、迅速な対応と情報共有、そして感染のリスクを伴う状況にも果敢に向き合ってくれたスタッフは大きな誇りである。またいつもと違う日課になることで不安定な状況になる利用者もいた中、新たな生活様式にチャレンジするため粘り強く対応しているスタッフの日頃の努力と奮闘にあらためて敬意を表したい。</p>	<p>ゆいバリューに基づく実践</p> <p>◇「証」 根拠に基づくチャレンジをする</p> <ul style="list-style-type: none"> @個別支援計画の書式を更に分かりやすいものに進化させる @ゆい塾の効果的活用(コロナ禍での動画配信等を駆使して)学び、プレゼンカ、医療知識、危機管理、職員の趣味 <p>紹介など</p> <ul style="list-style-type: none"> @全員が何らかの研修に参加できるように座学、ワークショップ、法人内の事業所研修など @プレゼン力を磨くため複数職員による発表の場を確保 <p>◇「和」 チームとして一流をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> @チーム支援(年2回)によるチーム力アップと全体への還元 @新職員のためのエルダーメンターシステムとその振り返り @機能的な組織となるよう業務の効率化及び各職員の役割、各種会議のコンセプトを示していく <p>◇「快」 きれいなゆいを常にめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> @修繕や整備予算の確保 建物の老朽化に伴い、設備や配管等の水漏れや故障も見られることから、破損修復やこれまで以上に予防のための整備など計画的な修繕をすすめる @職住分離を進めるための支援プランづくり @ゆい親和会と協働で、環境の美化に努める <p>◇「続」 最強の支援力はコツコツである</p> <ul style="list-style-type: none"> @ゆいバリューの確認と振り返り @人権意識の向上に関する取り組みを加速させる @ディスカバリー(ヒヤリハット)報告の定着と啓発 @誤薬防止への強い意識と啓発活動 @コロナウイルスへの感染予防と利用者サービスへの配慮と工夫 新しい生活様式の実践を積み重ねる(マスク着用、手洗い、手指消毒など) <p>◇「安」 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい</p> <ul style="list-style-type: none"> @年3回程度の余暇企画とセルフチェックの実施継続 @夜間避難や水防対策など非常災害時の訓練と課題の検証 @各種書類の重要性と書き方のレクチャー <p>◇「暖」 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる</p> <ul style="list-style-type: none"> @アートで工賃を還元できることをめざした取り組みを進化させる @既存の商品に付加価値を付ける視点でのアート展開 @社会人(職業人)としてのマナーアップについての取り組みを継続させる <p>そして2024年度のゆいは、これまでの取り組みや仕組み、感染症対策から得た新たな生活様式などを土台にして、チーム全員で挑戦(チャレンジ)する一年としたい。</p>
---	---

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>自閉症者自立支援センターは、強度行動障がい有する利用者に対して、専門的かつ模範的な取組を行っており、特に高く評価できる。また、自主的なミーティングの開催や道外から依頼のあった支援者養成のための実習の受け入れなど積極的な人材育成についても高く評価できる。</p> <p>自閉症・発達障がい支援センターは、専門性の高い職員を配置し、研修等を通じ、自閉症・発達障がいに関する普及・啓発活動を積極的に行うなど、本市の基幹支援施設としての機能を十分に発揮しており、高く評価できる。</p>	<p>全体としては、十分な利用率を確保している。おがるの収支状況について安定化に向けて検討を続けてもらいたい。特に、少なくとも2施設合計収益については、黒字を目指して計画を立てるよう努めること。</p>